

# 政宗騎馬像余話

## 小室達日記から



▷ 9

いそうかれ  
つゝなる決戦  
下、いよいよ  
出陣せられた  
ことに相成候  
（あいなりそ  
うろ）に可  
ては、之が壯  
途を祝福した  
記により出陣  
式挙行可致候  
（致すべし）

### 奇妙な出陣式

宗公御見え  
共出するのだ  
から、一般庶民がな、か  
まを中のは当たり前と  
いつたP.R効果を狙ったの  
だ。さすがに供出とは  
言えず、出陣式の美名を  
借りたわけである。

それを時代の流れとはい  
え、小室としては心算を  
注いで作り上げた舞臺の  
ついでに大作を、むす  
び落かしてしまふことにす  
きな、声を大にして戦を  
唱えれば、非国民のせり  
を免れまい。かといつて

が来たような予感がする  
（中略）なほ、内田  
知事にも来母ならは残し  
てもうより一応頼んでみ  
ることに話が出来ない、急い  
で帰つて来なう、いよ  
よ中央の指令を応答するこ  
とで帰つて来なう、いよ  
よ中央の指令を応答するこ  
とで帰つて来なう、いよ  
よ中央の指令を応答するこ  
とで帰つて来なう、いよ

騎馬像制作当時、県教育  
課勤務で小室らとともに騎  
馬像をトラックで運ん  
だ大和町谷合橋、元泉  
議（木村大六）は、今  
もこの時の模様をほつき  
り憶えている。

昭和十九年一月十三日、  
茨青葉城跡に旗下を陣馳  
うろこ。

東京の小室達自宅に、今  
から思えば何とぞ珍妙な案  
内状が舞い込んだ。  
「拜啓（中略）昭和十年  
政宗公像には凄愴激烈せ

差出人は、当時の内田信  
也知事や今村武志山台市長  
ら四人、ますます激しき勝  
敗を争つてゐる太平洋戦争の勝敗

出陣とは名ばかりで、戦争  
末期に盛んに行われた供出  
のことである。  
戦前、なべやかまを、夜  
取、されたことのある人な  
らすく思ひ出たろうが、

から、一般庶民がな、か  
まを中のは当たり前と  
いつたP.R効果を狙ったの  
だ。さすがに供出とは  
言えず、出陣式の美名を  
借りたわけである。

それが時代の流れとはい  
え、小室としては心算を  
注いで作り上げた舞臺の  
ついでに大作を、むす  
び落かしてしまふことにす  
きな、声を大にして戦を  
唱えれば、非国民のせり  
を免れまい。かといつて

が来たような予感がする  
（中略）なほ、内田  
知事にも来母ならは残し  
てもうより一応頼んでみ  
ることに話が出来ない、急い  
で帰つて来なう、いよ  
よ中央の指令を応答するこ  
とで帰つて来なう、いよ  
よ中央の指令を応答するこ  
とで帰つて来なう、いよ

騎馬像制作当時、県教育  
課勤務で小室らとともに騎  
馬像をトラックで運ん  
だ大和町谷合橋、元泉  
議（木村大六）は、今  
もこの時の模様をほつき  
り憶えている。

# 戦況激化で供出

出陣式は翌十二日に行  
われた。  
1.22 思ひ出の一夜で  
あった。礼服に身を改めて  
九時過ぎ出陣式場天守台を  
向かう。正十時、神官の修  
儀から始められ、神詞、出  
陣の辞、玉串奉読の後、土  
井（晩悠）先生の詩の朗読  
があつて一同を感涙させ  
た。作者として玉串を奉奏  
つて、再度上がった時は  
万感のごも垂り胸がさび  
る思いだった。式後その当

時の関係者もともあひさ  
つに見え一層情別感を更  
新した。  
騎馬像制作当時、県教育  
課勤務で小室らとともに騎  
馬像をトラックで運ん  
だ大和町谷合橋、元泉  
議（木村大六）は、今  
もこの時の模様をほつき  
り憶えている。



昭和10年の仙台七ツ子早くも政宗騎馬像の構型が人気を集めた（三越仙台支店）。しかし、その人気も騎馬像がたつた9年で撤去されては…

無念の思いを秘めることも  
むない。小室は日記に記  
す時の複雑な心情を吐露し  
ている。  
1.13 長門頼三（県青  
年団指導者、先生宅を訪ね  
る。政宗公銅像もいよいよ  
出陣せねばならない時機